

Alert 反天皇制運動 40号

【通巻 422 号】
2019 年
10 月 8 日発行

第 40 期・反天皇制運動連絡会

某鉄道会社の CM じゃないけれど、「そうだ、京都行こう！」という衝動が定期的に訪れる。

京都に行くと、必ず立ち寄るお気に入りの場所の一つに、韓国式の喫茶店がある。そこにあるチラシは私の興味をひくものが多くて、いつも行き当たりばったりの旅を充実させてくれる。かなり以前に訪れた時にとてもステキなデザインのチラシが目にとまった。長い間、我が家の台所の壁を飾ってくれて生活にすっかり溶け込んでいたけれど、油でべとべとになってしまい、残念ながらリノベを機に処分した。それは高麗美術館のチラシで、ずっと訪れたいと思いつつ、今回、「石の文化と朝鮮民画」展で初めてお邪魔することができた。

静かな住宅街に韓国式の土塀があらわれ、大きな二体の石人が出迎えてくれる。もうこの時点で幸せな気分でなんともわくわく。進んで美術館庭園のいっぱいの石人さんの魅力にウフフ。玄関を入ると、正面に白磁甕びんちゆうが目に入る。この美術館の創設者である鄭詔文さんが「今日」の始まりと紹介される壺だ。二階部分に資料や映像を観るコーナーが用意されている。

『思想の科学』に「日本の中の朝鮮文化」を連載した金達寿や、「こんな戦争は間違っている。天皇陛下のためになんか、死にたくない」とはっきり否定した婚約者に「わたしやったら、喜んで死ぬわ」と言って、日の丸の小旗を持っておくりだした自分を「加害の女」と問いつづけた岡部伊都子は、創設に関わった主要メンバーである。

鄭さんのご両親は西陣織の職人だったそうだ。私は恥ずかしいことに、たくさんの在日朝鮮人の方々が西陣織の産業を支えてくれたことを今回初めて知った。

「朝鮮・韓国の風土に育った『美』は今もなおこの日本で、言語・思想・主義を超えて、語りかけております。どうぞ、心静かにその声をお聴きください」と鄭さんの想い。皆さんもぜひお出かけください。
(鰐沢桃子)

今月の Alert ● 天皇戒厳態勢を打ち破ろう！—— 10・22 デモへ!! —— * 2

反天ジャーナル ● —— ドルジ・シンノスケ、大橋にゃお子、つるたまさひで * 3

状況批評 ● 即位の礼・大嘗祭は、新たな戦争・戦死者を生み出す国家形成イベント—— 辻子実 * 4

太田昌国のみたび夢は夜ひらく (112)

● 厚顔無恥なる者が跋扈する「現在」の原体験—— 太田昌国 * 7

マスコミじかけの天皇制 (39) ● 「代替わり」状況下の「東電旧経営陣無罪判決」—— 壊憲天皇制・象徴天皇教国家 批判 その 5 —— 天野恵一 * 8

野次馬日誌 * 9 集会の真相 * 10 学習会報告 * 11 反天日誌 * 12 集会情報 * 12



250 円

- 定期購読をお願いします (送料共年間 4000 円)
- 郵便振替 00140-4-131988 落合ボックス
東京都千代田区神田淡路町 1-21-7 静和ビル 2A 淡路町事務所気付 落合ボックス
TEL/FAX 03-3254-5460 URL <http://www.ten-no.net/mail:hanten@ten-no.net>
- 以前の情報はこちら ▶ <http://hanten-2.blogspot.jp/>

今月の

Alert

天皇戒厳態勢を打ち破ろう！

—— 10.22 デモへ!!



昨年一二月一二日、靖国神社の「外苑」で「南京大虐殺を忘れるな」と訴える横断幕をかけた、靖国に「合祀」されているA級戦犯・東条英機の名前を書いた紙を燃やして、日本の侵略戦争・植民地支配責任をなきものとする日本政府・日本社会に抗議した香港の郭紹傑（グオ・シウギ）さんと、彼の行動を取材していた嚴敏華（イン・マンワ）さん。二人は行動開始後すぐに靖国神社の警備員によって警察に引き渡され、「建造物侵入」で起訴された。そして一〇ヶ月近く勾留されたまま裁判を闘っている。検察は八月二八日、郭さんに懲役一年、嚴さんに八ヶ月を求刑し、一〇月一〇日が判決日だ。このニュースがみなさんに届く頃には何らかの結果が出ている。

二人を支援する会に反天連メンバーも関わってきたが、この思想・政治的表現行為と報道の自由に対する弾圧、アジアの人々からの批判・抗議を許さないという見せしめ弾圧を、はね返すことはできていない。この弾圧事件は、私たちが日常的に取り組んでいる反天皇制や反靖国運動が抱える課題の多くに直結する。私たちの運動に対する右翼と警察による暴力的な妨害や監視、あるいは安倍靖国参拝違憲訴訟や即位・大嘗祭違憲訴訟における安倍政権ベッタリの法廷と、地続きにあるのだ。

私たちの闘う相手がこの国であり、この国が強要する歴史の捏造とヘイトであり、その

根本問題としてある天皇制であること、そしてそこに安易や価値を認めるこの社会そのものであることを、あらためて思い知るのだった。天皇制を敬うことが当たり前の社会（人々）が、天皇制国家の侵略戦争・植民地支配の責任を問うことなど、できるわけもないだろう。徴用工問題、「慰安婦」問題、南京大虐殺問題に対する無責任体制・歴史の作りかえ等々は、戦時下の問題としてあるのではなく、象徴天皇制、戦後社会のつくられ方の間違いがつくり出した問題であり、社会の「無関心」という壁や、このヘイト社会の根本に、天皇制や靖国神社を戦後長らく残してきたことの問題があることを、あらためて訴えていきたい。

いま、国の行政はヘイト議員に席捲され、司法も議会も息の根が止められている。地方議会も同様でヤバイ状況にあるが市民の反撃も続いている。私たちの運動やことは、その反撃を試みる人々とながっていけるものでなくてはならないし、模索しながらもそのようなものとして続けていきたい。

このような、天皇制の歴史がくり出した極めて具体的な問題が多発する中で、政府は新天皇即位に関する諸儀式の準備を着々と進めている。それらは、大絶賛のなかで新天皇をこの社会が受け入れ、「敬愛と尊敬」を抱かせるための儀式としてある。そして、戦後の大きな間違いの一つである象徴天皇制はさまざまな矛盾をすり抜け、翼賛体制の中で尊敬

と敬愛の対象とされている。これこそが矛盾なのだけど、天皇制恐るべし、とあらためて思うのは、やはりこんなに怖ろしくわかりやすい矛盾を見えなくさせるからなのだ。宗教としかいいようがない。

宗教とは認識しないまま、多くの者がその信者となり、かけ声一つで最敬礼の態勢をとったり旗を振ったりする。使い慣れない敬語も天皇報道で学ぶ。そういった人々は対象を恐れているわけではなく、尊敬と敬愛によってそのような振るまいが出てくるように教えられる。それでもそれに不気味さや、あるいは滑稽さ、そして不正義を感じ、声をあげる人たちはまだ少なくない。さまざまに表出してくる矛盾に向きあい、それらと取り組む人たちと繋がりあいながら、できることをやっていくしかない。

「即位・大嘗祭」という「代替わり」儀式大詰め時期、東京は厳戒態勢下におかれる。まずは一〇月二二日、新天皇が国内外に向けて高みから「即位を宣言」し、「国民の代表」たち、他国の代表たちが、下から新天皇即位を祝うという服属儀礼・「即位礼」の儀式が行われる。反天連も参加するおわてんねつとでは、反対する者たちの存在を示すため、「東京戒厳令を打ち破れ！ 10・22天皇即位式反対デモ」をやる（チラシ参照）。

ともに声をあげよう！ 多くの結果を!!

（桜井大子）

ブータンでは大迷惑!

秋篠宮バッシングにのっかるわけではないが、今年八月の文仁、紀子、悠仁のブータン訪問。大歓迎されたかのような日本の報道だったが、現地では大迷惑、ほとんど報道もされなかったらしい。そもそも日程がインドのモディ首相の来訪と重なっていた。ブータン王国にとってインドは、政治、経済、軍事等あらゆる面で非常に重要な大国。日本で言えばアメリカみたいな国だ。その首相が来るというので大騒ぎのところへ、どっかの国の王族が急に来ると言い出し……。とは言え、日本のJICAの援助も受けているから無下に断るわけにもいかなかったのだろう。

ブータンで就航しているのはドゥルクエア一社で飛行機もそんなに大きくない。民間機を使う秋篠宮は何十人もおつきを連れてくるので、ブータンの人が乗れなかったり日程を変更させられたりしたと言われている。訪問先の小学校では運動場が閉鎖され、小学生たちは運動場の向こう側にあるトイレに行けずガマンさせられた。大迷惑どころのハナシではない。もともと、日本の王族の警備は大勢でぞろぞろと囲んで見苦しく評判が悪いのだそう。英国王室の警備は目立たずスマートだとか……。スマートだったらいってもんではないが。

(トルシ・シンノスケ)

「三里塚」

今年の夏は、ちょっとした伝手も出来たので1泊2日で千葉の『三里塚』に行ってきた。

現地で活動している方々に案内と解説をお願いし、天神峰決戦本部で『三里塚闘争 不屈の50年』という大変激熱なDVDを観、先祖代々の土地を守りつつ日々闘っている市東さんの畑から迫りくる飛行機を見、今年の春に生まれた仔猫の可愛らしさに和み、「強制収用実力阻止」と、垂れ幕が掛かった櫓に上って大興奮した。その日は岩山大鉄塔跡記念館でみた。鉄塔の屋上で体験した飛行機の爆音の凄さは、沖縄を始めとした基地とも繋がる。

翌日は「平安時代から変わっていない」とされる長閑な場所を見学した。ここをぶつ潰して第三滑走路を作るらしい。そうなるとうたな騒音被害も出るので、今までの運動体とは関係の無い全く新しい人たちも反対しているとの事だった。

それから約1カ月後、台風15号が関東を襲った。中でも千葉は被害が大きかった。しかし成田空港に近い家は早々に復旧したそう。ナニソレ、空港に反対しているのに、「ここ空港だから!」という政治判断なワケ?? 災害対策本部も置かないクセにそこだけ自己主張かよ。で、「第三滑走路は必要なんです。だから第三滑走路が必要なんですよ」とかボエム進次郎が言い出すんだろーな。本当イヤー!

(大橋にゃお子)

ODで精神医療が変わるか

最近、オープンダイアログ(OD)にはまっている。以下は『オープンダイアログがひろく精神医療』(斎藤環著)から。

▼精神科医として衝撃的だったのは『対話』で急性期精神病が改善・治癒するという事実……(150)
▼医師としての私自身は、けっして薬物を否定する立場ではない。しかし30年近く薬物治療を続けてきて思うことは、薬物には精神疾患の本質的部分を変える力はほぼない……(116)

▼ODには、現代の精神医療のあり方に大きなパラダイムシフトを迫る思想的・臨床的な可能性がある。それはポストモダンの思想に依拠した「人間」と「主体」の復権……この手法/システム/思想は、わが国の精神医療が地域移行を進めていくうえでも、有力な支柱のひとつ……(216)

じゃあ、そのODとは何かという話を書くスペースがないが、訓練を受けた複数人のチームで患者のところに行き、関係者も含めて本人の話を否定しないで対話的な関係の中で対話が続ける、薬はあまり使えない、という単純な話。早く知りたい人には、「オープンダイアログ」と「ガイドライン」の二語で検索すると「対話実践のガイドライン」というテキストがダウンロードできるので、そちらを。パラダイムシフトが起きれば面白いんだけど。(くるたまさひで)

状況批評

思想・状況・批評

即位の礼・大嘗祭は、 新たな戦争・戦死者を生み出す国家形成イベント

辻子実 (即位・大嘗祭違憲訴訟の会) 呼びかけ人・原告

天皇ヒロヒトへ贈るバラード

「このままでは逝去（いか）ないでください」

作：K・SOUTOPO

訳：木村公一

覚えていますか あなたがアジアの民に向かって 宣戦の布告もなし
に 侵略しはじめた日のことを
聞えていますか ジャングルの奥で 死んだ母親の乳房をもとめて泣
き叫ぶ幼子の声が
見えますか 菊花（きく）の紋章をつけた兵士たちが 恐怖に震える
乙女らの胸に銃剣を突き付け

衣服を剥がしているありさまが

感じますか 焼き討ちにあった村々の子供たちが 煙火の中で炎を吸
い込みのたうち回る苦しみを

誰でしょう アジアの大地を民衆の地で染めあげたのは いまその大
地が 口をあけてあなたを

飲み込もうとしています。

陰府路（よみじ）へ下る前に、アジアの若者たちに向かって証して下
さい。

いかに上手に責任を免れて延命できるかではなく ひとはいかにして
責任ある人生を暮引きすべきかを

最期の許し乞いを あなたの軍隊によって犯されたアジアの民に哀号
してください。

そうすれば 見舞いの記帳に長蛇の列をつくるおじさんやおばさんも
少しは我が身を振り返るでしょう

そうすれば 二重橋の前で宮城遥拝紛（まが）いなことをなさるお兄
さんやお姉さんたちも
少しは考えてくれるでしょう。

このままでは逝去（いか）ないでください

世界一高価な宮城に住むあなたにも

聞えたはずで 幼な子たちの叫び声

見えたはずで 凌辱された乙女たちの姿が

感じたはずで のたうち廻る子供たちの苦しみを

覚えていますよね あなたはアジアの民に対し いまだ敗戦の「ハ」
の字も宣言されていないことを

この詩は、一九八九年に発表されたインドネシアの詩人のものです。

三〇年以上の前の詩を敢えて紹介させて頂いたのは、ある雑誌で『奉祝』
の波に飲まれることなく、再び『天皇制はいらない』という一大ムーブメ
ントを作り上げることができるのではないか、と書いている。」との文章
に出会ったからです。

こと天皇（制）に対して私たちは、過去に『天皇制はいらない』とい
う一大ムーブメントを起こせてきたのでしょうか。

私たちは、一九八九年ヒロヒトを「このままでは逝去（いか）せてしまっ
たのではないだろうか。

もちろん現在、即位の礼・大嘗祭違憲訴訟が闘われていますし、カメの
甲羅を焼いて亀トされた京都で、いずれ主基斎田違憲住民訴訟が取り組ま
れることになると思います。

少数者であることを自覚しつつ、なおNOの声を挙げ続ける必要がある

と思います。

■即位の礼

一〇月二日の即位礼正殿の儀では、高御座なるものが登場します。

その中で天皇は、平安朝の装束である黄櫨染御袍（こころざんのごぼう）と言われる独特の装束をまとい、「おことば」なるものを読み上げます。しかし、華美な高御座と平安朝の装束の対比に、なにか違和感を持たざるを得ません。

そもそも即位の礼は、中国の皇帝即位様式を模して執り行われ続けたのです。桓武天皇の肖像画を見ても判るように、中国の皇帝を模した冠を被って即位していたのです。

中国風の高御座と和風装束では、しっくりくるわけがありません。これが、伝統なるもののまやかしのです。

一九九五年大阪高裁判決でさえ即位の礼正殿の儀について、「憲法違反の疑いは一概に否定できない」と指摘しています。

一九四五年以前治安維持法などの判決において、でっち上げ弾圧の先頭

を切り、戦後も侵略戦争に加担したことに一切頼りし続けている裁判所においてさえ、このような判決を出さざるを得ない違憲儀式である即位の礼正殿の儀を、私たちは許さないという声を挙げ続けなくてはなりません。

■ヒロヒト『拝謁記』

二〇一九年八月一七日NHKスペシャルで、「昭和天皇は何を語ったのか」初公開・秘録『拝謁記』が放映されました。

東京スポーツなどは「NHK「特大スクープ」の衝撃的な内容（二〇一九年八月二〇日）」と報じたようですが、原武史さんはツイートで「学者の世界では、先行研究ですでに明らかにされていることをきちんと踏まえた上で、新たな史料によってわかった知見は何なのか、その範囲をくっきりと浮かび上がらせることが求められる。連日のNHKのキャンペーンは、このルールを全く無視しているようにしか見えない。」と、番組を痛烈に批判しています。

しかしヒロヒトは、「サンフランシスコ講和条約発効の一九五二年四月二八日を前にした二月二一日、田島に『私は憲法改正二便乗して外のい

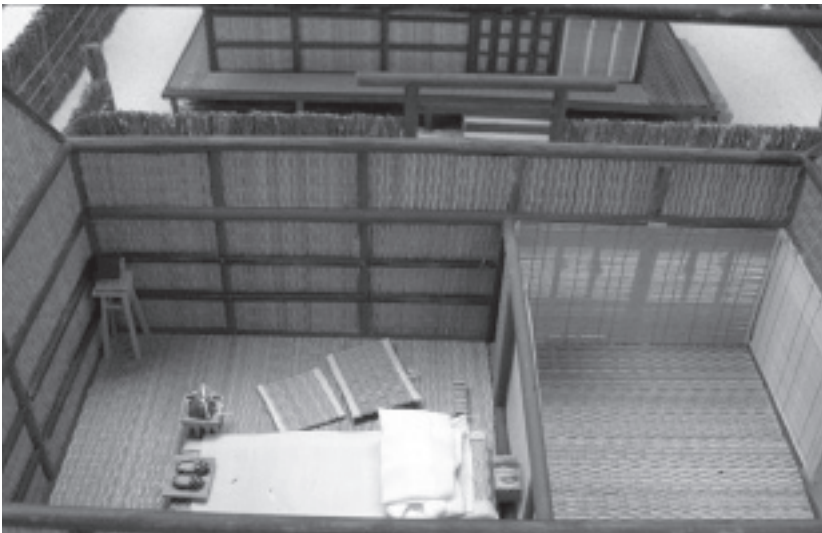


【黄櫨染御袍・桓武天皇肖像画】

ろいろの事が出ると思つて否定的に考へてたが今となつては他の改正は一切ふれずに軍備の点だけ公明正大に堂々と改正してやつた方がいい様二思ふ」と安倍が狂喜乱舞するような憲法改悪発言をしていたよつで、今、『拝謁記』を「スクープ」することの恐ろしさを感じざるを得ません。

■大嘗宮の儀

天皇に天皇霊が宿するという大嘗祭のメイン・イベント、大嘗宮の儀が一月二日三日に渡って行われます。



【悠紀殿・主基殿内部模型】

ウィキペディアの「大嘗祭」の項では、大嘗宮の儀に関して《鎌田純一は、折口信夫の説いた「真床覆衾」の妄説が彼自体は大嘗祭の奉仕に不参加にも拘わらず、その学者、歌人としての地位の確立と相まって昭和十年以降広まり、その妄説を記した書が一般向けに廉価で多く出されていたこともあり、岡田莊司を始めとする反論が、その妄説を駆逐するに至らなかったため、大嘗祭催行にあらぬ大きな障害となりかけたことを記し、この

折口説により外国からも、日本文化全体まで蔑視されそうになったことを非難している。》というような書き込みが行われていますが、宮内庁のHPでは「天皇陛下がご即位の後、大嘗宮の悠紀殿及び主基殿において初めて新穀を皇祖及び天神地祇に供えられ、自らも召し上がり、国家・国民のためにその安寧と五穀豊穡などを感謝し、祈念される儀式」と説明されています。

しかし、非公開の大嘗宮の悠紀殿・主基殿には「覆衾」と呼ばれる布団が敷かれているのです。

「皇祖及び天神地祇に供えられ、自らも召し上がり」を税金で行う事も論外の話ですが、召し上がるだけなら、布団を敷く必要はないでしょう。折口信夫の「真床覆衾」妄説が説得力のある論として駆逐されないのはこのためでしょう。

しかし、なぜ政教分離原則に違反しても、大嘗祭を強行するのでしょうか。やはり、新たな戦争に天皇（制）が必要だからではないでしょうか。

■新たな戦争・戦死者

現在、自衛隊員の事故死者については「殉職」の美名のもと、市ヶ谷・防衛省敷地内にある「自衛隊殉職者慰霊碑」で、「功績を永久に顕彰」していることになっていますが、これで自衛隊隊員は戦死できるのでしょうか。安倍首相や日本経済の為に、戦死できる自衛隊員はいるのでしょうか。

一九四五年以前は「国体護持」のために、特攻という殺人戦術まで行き着きました。

神聖天皇の登場は、国を守るというスローガンの象徴的意味を持たせられる存在になるのではないのでしょうか。

靖国神社が、セクハラ問題などで内部崩壊しているような感もあります。が、やはり天皇が「親拝」する侵略神社やスクニの存在は、帝国軍隊としての自衛隊の存在感を浮き彫りにするでしょう。

即位・大嘗祭は、単に神権天皇制国家の象徴的儀式に留まることなく、新たな戦争・戦死者を生み出すことのできる国家形成のためのイベントである側面を持っていることを理解すべきだと思います。

太田昌国の夢は夜ひらく 112

みたび

厚顔無恥なる者が跋扈する「現在」の原体験



任意の社会にあつて、政治・経済・軍事などの領域で権力支配の頂点に立つ者が、往々にして無責任かつ恥知らずであるということは、古今東西南北の歴史において、私たちのよく知るところだ。だが、世界全体を見て、否なによりもこの日本社会を見て、これほどまでに厚顔にして無恥、加えて無知なる者たちが跋扈する時代はあつただろうかとは、二〇一九年の日々を生きていて、抑えがたく沸き起こってくる思いである。首相を筆頭とする政治屋たち・トップ官僚たち・経済界の「重鎮」たち・東電や関電の幹部たちなどの論理性と倫理性の完全なる欠如、ニュース報道におけるNHKの底知れぬ頹落、マスメディアに登場する「言論人」たちの破廉恥ぶり―それらは、もはや「言つても愚か」の域に達している。

最近の実例を知りたければ、一〇月四日の臨時国会初日に行なわれたばかりの安倍首相の所信表明演説を見よ。スピーチライターまでもが無恥の病に罹つて、瀕死の重体である。「恥を知る」という「人間としての」基本が備わつてさえいれば、身を振るつつ自ら穴を掘り、その穴に身を隠してしまいたいような事態に追い込まれても、恬として恥じない彼らは、居直つて居座り続けるだけの「胆力」に恵ま

れているのだ。南房総地域に手ひどい被害を遺した台風15号に関わる真剣な予報人の言葉を借りれば、「今までに経験したことのない」台風ならぬ人間が、あちらにも、こちらにも現われている。モグラたたきゲーム機なら、一つのモグラの頭を叩けば別な一頭が飛び出てくるだけだが、今や叩いても叩いても懲りもせずに八頭全員が頭をもたげている体だ。だが、果たして、これは私たちにとって初体験のことなのだろうか。

去る八月一九日以降の新聞各紙は、敗戦後の初代宮内庁長官（一九四九～五三）・田島道治が手帳やノート全一八冊に記した天皇裕仁とのやり取りの一部を、「拝謁記」発見と題して大きく報道している。実は、これはNHKの「スクープ」で、八月一六日以降大々的に報道していたというが、NHKのニュースを日ごろ見聞きしない私は、数日遅れの新聞報道で知つたのだった。今回公開されたのは、田島の遺族が同意した部分のみの抜粋であることに留意すべきだろう。また原武史のコメントに教えられて私も読んだが、これには、加藤恭子の『昭和天皇と田島道治と吉田茂―初代宮内庁長官の「日記」と「文書」から』という先行研究があること（人文書館、二〇〇六年）も心に留めて、NHKの「スクー

プ」宣伝に足を掬われないこと、そして繰り返すがまだ公開されていない部分があることに留意すべきだろう。

さて、問題は、今回公開された限りの「拝謁記」から何を読み取るかに尽きる。裕仁がここで語っていることの基本線は以下である。戦前については、「軍も政府も国民もすべて下克上とか軍部の専横を見逃すとか皆反省すればわるいことがある」から皆反省すればよいが、それは「私の届かぬ事」であつた（五二年二月二〇日）とする。戦後は、「（戦争について）私ハどうしても反省といふ字を入れねばと思ふ」という五二年一月二二日に語つた思いが、当時の吉田首相の反対にあつて実現しなかつたと悔しがる。メディアはこれを真に受けて、一貫した平和主義者としての裕仁像を描き出している。

だが、沖繩二紙と「赤旗」が記載した五三年一月二四日の発言を見よ。「米軍基地については、誰かがどこかで不利を忍び犠牲を払はねばならぬ。その犠牲二八全体が親切に賠償するといふより仕方ないと私ハ思うがネー」。米軍による長期にわたる琉球諸島の軍事占領を望んだ一九四七年の「天皇の沖繩メッセージ」の路線は六年後も生き続けていたと言つべきだろう。最も真剣に戦争責任を背負わなければならなかった者がそれを逃れた拳句に保身に満ちた言葉を側近に記録させ、それが厳しい批判にさらされることがないことこそが、厚顔無恥な者が大手を振つてふるまう戦後史の「はしり」と言えよう。この原体験を問わずして、虚偽に虚偽を重ねて成つた戦後七四年史を再審に付す場所はないと知るべきだ。

10月5日記

マスコミの
天皇帝制 39

「代替わり」状況下の「東電旧経営陣無罪判決」

——〈壊憲天皇制・象徴天皇家国家〉批判 その5



九月三日、私はNCC靖国神社問題委員会主催の「天皇代替り問題連続集会」で、「代替わりとマスコミ報道」のテーマで講演。そこで私はいま「即位礼正殿の儀」が、政府によって前回を踏襲して行われようとしていることの問題。憲法二〇条（政教分離・信教の自由）など存在していないかのごとき違憲の天皇教の儀式のオンパレードが政府によって実行されつつある状況。これに全マスコミは正面から批判せず、ほぼそれは「日本（皇室）の美しき伝統」であるにすぎないとする欺瞞のボールをかぶせて正当化してみせている。この点をまず考えるべし。

と同時に、この宗教性（「代替わり」儀礼のプロセスに露骨に示されるそれ）は、一見宗教（神話）性とは無関係に、日常的に垂れ流され続けている。「サマ、サマ」漬けの、絶対敬語を乱発する皇室（の人格）ヨイシヨ報道とセットで考えられなければならない、ハッキリとした宗教的神格化と、「真善美」の象徴的人間としての「人格」賛美によるもう一つの「神聖化」とがドッキングしている点こそが問題なのだと論じた。

そして、この「神格化」と「神聖化」が重ねられてつくり出されているのが、かつて戦後の歴史の中で一番わかりやすく大衆的であった天皇（制）の侵略戦争責任、およびそれをまったく取らずに来た「戦後責任」という問題を、見えなくしてしまうことである。三代目の今、そんなことを問題とする日本人

はもう存在しない。あらゆる批判の声（運動）を無視し前の「代替わり」の政治プロセスにその問題こそが大きく運動的に浮上した事実にする、ほとんど触れようとしないうこの間のマスコミ報道の姿勢が、それをよく示している。

だからこそ、三代目の象徴天皇に継承された植民地支配・侵略戦争責任を問いつけるべきである。その問題に〈時効〉などありえないのだから。

こう話しながら、絶対神話の〈神〉として戦争へ人々をフル動員した天皇という〈絶対責任者〉がまったく責任をとらずに戦後に延命することで成立した〈象徴天皇制〉によって、実は〈無責任の体系〉、国家日本は実践したわけだが、今の「代替わり」によってこの〈無責任の体系〉は、より徹底的に強化されているという事実、私はあらためて思いあたった。

この集まりの直前の九月十九日、東京地裁は、東京電力福島原発事故をめくり、業務上過失死傷罪で強制起訴に追い込まれていた東電の元会長勝俣恒久、元副社長長武黒一郎と武藤栄の三人に、なんと無罪判決を出した。

全国で避難者らが集団提訴した民事訴訟は二八件あり、各地の地裁では「大津波は予測できたことであり、事故は防ぐことは可能であったにもかかわらずそうしなかった」と東電の責任を認める判決がいくつか出ており、誰もこんなハレンチな電力会社・政府のデタラメを正当化する判決が出るとは予

測していなかった。今、怒りの声は全国の反原発運動の中に、深く静かに拡大している。これだけの原発事故で、この「国策民営」政策の大破綻に対し誰も責任を取って辞めてないばかりか、刑事的にも平然と「無罪」、東電のトップ三人がである。

「運転停止を義務付けるほどの津波襲来に対する危険を、3人が具体的に認識できたとは認められない」／「第一原発は法令上の許可を得て設置、運転されていた。社会通念の反映であるはずの法令による規制は、絶対安全性の確保までは求めていなかった」。

この判決の論理は、どうだ。政府も電力会社もマスコミも、日本の原発は「絶対安全」で重大事故はありえないと強弁し続けていた。

『朝日新聞』（9/20）の「視点」（「無罪でも消えない責任」〈佐々木英輔編集委〉）に以下のような主張がある。裁判を通してやっと具体的に視えた東電社内動き。「そこで見えたのは、原発の停止を避け、いかに軟着陸をさせるかを探る組織の姿だ。高い津波予測を表に出さないよう、つじつま合わせの理屈を練り、ほかの電力会社や専門家の根回しに走った。経営陣も予測のあいまいさを理由に様子見に終始した」判決は、国を含め誰も対策を求めなかったことを強調している。「事故前の業界の論理や無策、ふりが無罪を導いた」。

なんと国や会社があるごとく無責任体制だったからトップが無責任である（安全を考えない）のはあたりまえ、ゆえに「無罪」という論理である。「これに、〈3・11〉直後にゆらいだ〈無責任の体系〉が〈災後〉八年、天皇代替わり状況下の今、あらためて強化されている事実が示されている」。

毎日新聞

9月1日～9月30日

【9月1日】

明仁、美智子◆ハンガリー放送交響楽団の演奏会を鑑賞。

佳子◆関東大震災、都立横網町公園の慰霊堂で営まれた大法要に参列。

【9月2日】

秋篠宮、紀子◆「国際博物館会議 京都大会」の開会式に出席。

大嘗祭◆「鹿服」を作るための麻糸が、「阿波忌部鹿服調進協議会」に引き渡される。

【9月4日】

皇室会議◆秋篠宮と故常陸宮の妻華子が再選。

【9月5日】

悠仁◆13歳の誕生日を迎え、徳仁、雅子にあいさつ。明仁、美智子の住まいの皇居・吹上仙洞御所を訪問。

【9月7日】

即位礼◆宮内庁が「高御座」の組み立て作業を報道陣に公開。

【9月7日】

美智子◆手術前の検査などのため入院。

【9月8日】

徳仁、雅子◆秋田県の第39回全国豊かな海づくり大会の式典に出席。

【9月9日】

美智子◆乳がんの摘出手術を受ける。

【9月10日】

信子◆背骨を折り、慶応大病院に入院。

【9月10日】

美智子、徳仁、雅子◆美智子が、退院。徳仁、雅子が「見舞い」に訪れる。

秋篠宮、紀子◆「第30回福岡アジア文化賞」の授賞式に出席。

大嘗祭◆徳島県の山崎忌部神社で、「鹿服」の織り初め式が開かれる。

【9月11日】

天皇、皇族◆紀子の53歳の誕生日を祝うため、徳仁、雅子や明仁、美智子が、赤坂東邸を訪れ、共に夕食。午前中、紀子が明仁、美智子にあいさつするため皇居・吹上仙洞御所を訪問。

【9月12日】

大嘗祭◆皇居・東御苑に建設中の大嘗宮の屋根について、板ぶきにする方針。

【9月13日】

徳仁◆旧ユーゴスラビア・コンボのサチ大統領を皇居・宮殿に招き、会見。

【9月14日】

眞子◆横浜アリーナを訪れ、ドミニカ共和国戦を観戦。

【9月15日】

佳子◆オーストリアとハンガリーを「公式訪問」するため、羽田発の民間機で出発。

【9月16日】

徳仁、雅子◆新潟市の「朱鷺メッセ」で開かれた国民文化祭と全国障害者芸術・文化祭の開会式に出席。

【9月17日】

佳子◆民間機でウィーンに到着。ファンデアレレン大統領を表敬訪問。

【9月17日】

徳仁、雅子◆新潟市の県障害者リハビリテーションセンターを視察。

【9月18日】

「出迎え」◆安倍晋三首相がJＲ東京駅で、新潟県を訪問した徳仁、雅子を出迎え。

「出迎え」◆安倍晋三首相がJＲ東京駅で、新潟県を訪問した徳仁、雅子を出迎え。

【9月18日】

秋篠宮、紀子◆国立中央青少年交流の家の開所60周年記念式典に出席。

佳子◆ウィーンで、同国との友好150周年記念レセプションに出席。

【9月19日】

即位パレード◆徳仁、雅子が10月22日に行うパレード「祝賀御列の儀」を巡り、台風などで荒天が予想される場合の予備日を10月26日にと決める。

【9月19日】

大嘗祭◆宮内庁が、「大嘗祭」で使うコマを栽培している栃木県の「悠紀田」と京都府の「主基田」の所在地や耕作者を発表。

【9月19日】

徳仁◆皇居・生物学研究所の隣にある田んぼで、即位後初めての稲刈りをする。

【9月20日】

秋篠宮、紀子、彬子◆秋篠宮、紀子が東京港区のホテルで、ラグビー・ワールドカップ日本大会組織委員会などが大会関係者を招いた歓迎パーティーに出席。

【9月20日】

美智子◆今後、放射線治療はせず、ホルモン療法だけを受けると発表。

【9月21日】

眞子◆「第66回日本伝統工芸展」を鑑賞。

【9月21日】

佳子◆ハンガリー的首都ブダペストに到着。アーデル大統領を表敬訪問。

【9月21日】

即位儀式◆式典実施連絡本部（本部長・菅義偉・官房長官）の会合を首相官邸で開く。

【9月21日】

皇室報道◆マスコミ倫理懇談会の全国大会。

【9月21日】

佳子◆パンノンハルマ大修道院を見学。

即位礼◆「高御座」の組み立てや、皇族や職員らが着る古式装束、調度品の調達など、準備が大詰めを迎えているほか、政府が194カ国に招待状を送り、賓客の受け入れ整備も進める。

【9月22日】

大嘗祭◆「ゆき・すき（悠紀田）」「主基田」「サミット」が、東京・明治神宮会館で開かれる。

【9月22日】

即位恩赦◆政府が、徳仁の即位に伴う10月22日の「即位礼正殿の儀」に合わせ、対象となる罪や刑の種類を決めて一律に行う政令恩赦を実施する方針を決めた。

【9月22日】

久子◆整備が進む高田松原津波復興祈念公園に東日本大震災津波伝承館と、国営追悼・祈念施設がオープンするのを前に、故高円宮の妻久子が伝承館を視察。

【9月23日】

佳子◆ハンガリー的首都ブダペスト市内にあるレストランで、夕食会に出席しあいさつ。

【9月23日】

佳子◆ブダペスト市内にある日本人学校を訪れ、子どもたちと交流。

【9月24日】

「秋季皇霊祭・神殿祭」◆安倍晋三、皇居で行われた「秋季皇霊祭・神殿祭の儀」に。

【9月24日】

徳仁、雅子◆東京都目黒区の高齢者センターとシルバー人材センターを訪れる。

【9月25日】

秋篠宮、紀子◆「釜石折りのパーク」の慰霊碑に献花。「いのちをつなぐ未来館」を訪問。

【9月25日】

佳子◆「リスト音楽院」を訪問。

【9月25日】

秋篠宮、紀子◆「釜石鶴住居復興スタジ

「アム」を訪れ、フィジー対ウルグアイ戦を観戦。秋篠宮は日本大会の名譽総裁。

佳子◆羽田着の民間機で帰国。

即位礼◆政府が、皇居・宮殿「松の間」に入室する経路を「昭和」以前の形式にもどした。「憲法との関係で問題ない」。

〔9月26日〕

大嘗祭◆「嘉田拔穂の儀」を翌日に控え、「嘉田拔穂前一日大祓」が行われる。

〔9月27日〕

大嘗祭◆「嘉田拔穂の儀」が、栃木県高根沢町と京都府南丹市の嘉田で行われる。

〔9月28日〕

徳仁、雅子◆東京駅発の特別列車で茨城

県を訪れ、笠松運動公園陸上競技場で国体総合開会式に出席。徳仁がとあいさつ。

眞子◆日本中近東アフリカ婦人会が主催する第20回チャリティーバザーを視察。表現の不自由展◆「あいちトリエンナーレ2019」で中止となった企画展「表現の不自由展・その後」を巡り、芸術祭の実行委員会と不自由展の実行委が、展示再開で合意。

〔9月30日〕

美空ひばり「皇相」

皇室におけるジェンダー

.....

八月二七日(火)、「アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える練馬の会」主催の第五回学習会「皇室におけるジェンダー」が練馬厚生文化会館で行われた。講師は、千田有紀さん(武蔵大学教員)。

千田さんは、明治以降の近代天皇制を家族論の切り口で分析し、パワーポイントを使いながら、話を進められた。「近代家族」が、明治期に皇室一家(明治天皇と皇后を中心とした)をモデルに形成され、それが強固な家族国家観をつくりあげ、さらに、戦後アキヒト・ミチコの結婚が「現代家族」のモデルとしての役割を果たし、マイホーム主義を蔓延させた。

ところが、現天皇(前皇太子)一家も秋篠宮家も、それぞれ家族に不安定要因を抱え、それがメディア(特に週刊誌)やネットで批判的に取り上げられることによって、天皇制の統合機能が弱っていく。また新天皇即位によって、これまでの新

天皇家と秋篠宮家の評価が逆転し、女性天皇論の再浮上も見え隠れする。

近代天皇制と近代家族・現代家族をパラレルに批判する視点はおもしろかったが、現在の天皇制批判という点では少し物足りなかった。その後も質疑応答では盛り上がり、千田さんのおしゃべりは止まらないという感じだった。参加は、約四〇名で、はじめての参加者も多かった。

次回は、一〇月二九日(火)に、集会「天皇の代替わりの儀式」と今後の象徴天皇制を考える」を講師に中島三千男さん(歴史学者)をお迎えして行う(於:練馬厚生文化会館)。

(練馬の会/中川)

天皇制に終止符を! 8・31集会 @横浜・紅葉坂教会

.....

某方面からの事前・当日の脅し・妨害的動きにもかかわらず、共催団体防衛係の奮闘と予想を超えた一四〇人もの参加で、渡辺美奈さんの講演会はとても意義あるものとなった。

最初の一六分で「私たちは忘れないー追悼・姜徳景ハルモニ」を上映し、姜徳

景さんら六人が一九九四年に「責任者を処罰せよ」との告訴・告発状を東京地検に届けるも受理すらされなかったことを受けて準備された二〇〇〇年の女性国際戦犯法廷から、人道に対する犯罪で有罪判決を受けたヒロヒト天皇らの肖像を常設公開展示したWAMの二〇〇五年設立に至る経緯を語り、この公開展示を非政治化しようとする空気に抵抗していきたいという決意表明で始まった渡辺さんのお話をその後の応答の趣旨も込めて要約してみた。

「戦争に強姦はつきもの」という発想に基づく不処罰が強姦の連鎖を許してきた。あれだけの女性を性奴隷化したヒロヒトと日本軍高官の責任を裁いてこなかった日本の責任が問われた。「オレは謝ってもらいてえ。謝ったらタダじゃすまねえのは、世の中の常識だ」という宋神道さんの言葉は、「真の謝罪を成立させるものは何か」と私たちに迫る。それは「許しを請うて水に流す」とは真逆で、二度と同じ過ちを繰り返さない信じてもらえるに足ることをすること、すなわち真相究明、加害者の処罰、損害賠償、記憶の継承を通して、軍事主義を復活させず、

景さんら六人が一九九四年に「責任者を処罰せよ」との告訴・告発状を東京地検に届けるも受理すらされなかったことを受けて準備された二〇〇〇年の女性国際戦犯法廷から、人道に対する犯罪で有罪判決を受けたヒロヒト天皇らの肖像を常設公開展示したWAMの二〇〇五年設立に至る経緯を語り、この公開展示を非政治化しようとする空気に抵抗していきたいという決意表明で始まった渡辺さんのお話をその後の応答の趣旨も込めて要約してみた。

天皇制を終わらせることだ。謝罪を天皇に期待したり求めるのは避けて、天皇を私たちが引きずり降ろすことで責任を果たしたい。

(神奈川の会/大友深雪)

「ここが問題! 即位礼・大嘗祭」浜松講座

.....

九月二一日、即位・大嘗祭違憲訴訟事務局の新孝一さんを講師に、「ここが問題! 即位礼・大嘗祭」の題で、浜松で集会をもった。

新さんははじめに、政府は剣璽等承継、即位後朝見、即位礼、饗宴などを国事行為とし、大嘗祭などの行事を公的行為とし、即位関連儀式で総額一六六億円を使う予定であることを話した。また、即位礼によって天皇の政治的即位が完了し、大嘗祭によって神と一体化し、宗教的の性格性をえることになる、今後の行事の意味を解説した。さらに、国家の内部には戦後版の国家神道である天皇教が埋め込まれ、公的に天皇の祭祀が布教されているという問題点を指摘した。そして、即位大嘗祭違憲訴訟の現状について話し

た。

この問題提起を受け、天皇制を支える精神構造、アキヒト象徴天皇制の問題点、癒しや慰めの偽善性、政教分離と天皇制、天皇教の問題、リベラルの天皇賛美の問題点、天皇を無害とみなす判断の誤りなどのテーマで、意見交換をおこなった。

(人権平和・浜松)

天皇は茨城に来るな！ 天皇制は今すぐ廃止しろ！

……………

四七年振り二巡目の茨城国体が始まった九月二八日、開会式にあわせて新天皇初の国体に対する反対デモが、三三名で

行われた。

朝九時から、開会式会場の笠松運動公園に向けてシャトルバスが出て人が途切れず、さらに地元で開催されるホッケー競技を盛り上げるためのイベントが行われている常磐線東海駅（東海第二原駅のある東海村だ）西口で、各地の仲間がスピーチをしてもいいながら情宣を行った。駅から出てくるのは開会式へ向かう人ばかりにも関わらずビラはけはよく、警戒していた右翼や警察の介入もなく一時間の情宣をやり切り、近くのショッピングセンターでゆっくり休憩（他にそんなスペースはないのだ）。

一時に東海駅東口すぐの、土曜の午後

なのに全く人気がない公園に集合しているよ！デモである。出発前に種子島よりの連帯のあいさつを読み上げ、前回東京での反対運動で作成された「反天皇杯」が茨城に授与される。この「反天皇杯」は次の反対運動まで茨城で預かり、渡さなければならぬ大切なものなので、その重量の軽さと意義の重みに身が引き締まる思い……いや、引き締まらんないか。笠松運動公園まで東海駅から三・五キロだが、そもそも警察が近づかせざるはずもなく、雑木林と畑だけの中を延々歩く気にもならないので駅周辺の市街地を歩く一時間ほどのコースだ。ショッピングセンターの客やお召列車を見ようと集まって

いる人々（！）など、つくばでのデモに比べてはるかに多くの人に向けて「国体いらない、天皇いらない」とアピールができた。

今回の行動には茨城県内よりむしろ、東京、神奈川、千葉、埼玉、群馬、静岡と各地から多くの仲間が駆けつけてくれた。決して近いとは言えない東海までよく来てくれたと感謝している。茨城では国民文化祭まで含めた四大大行事がこれぞ一段落したが、今後も様々な機会を見つけては県内で天皇制反対の声を上げていきたい。個人的にはこれでやっと夏が終わった気がしているが、秋の戦いにむけてがんばろうと思っている。最後に笑う

『学習会報告』

美濃部達吉 『憲法講話』

(岩波文庫 二〇一八年)

初版は一九二二（明治四五）年三月一日に発行され、改訂版は一九一八（大正七）年一〇月二日に発行された。その一九二四（大正一三）年四月一〇日に増刷発行された版が底本。新仮名遣いへの改め、振り仮名送り仮名の補い、漢字表記の平仮名への改めなど、読みやすくなるためのあれこれがほどこされている。

文部省が開催した中等教員夏期講習会（一〇回）の記録であり、「健全なる立憲思想を普及」することをめざし、天皇制

官僚たちの通説をつくりだした美濃部の、この時代、おそらく、もっとも広く読まれた彼の著作の一冊である。それがやっとなすこぶる読みやすい文庫として、私たちの手にといた。

欧米の立憲主義の精神に、できるだけ引き寄せて解釈するため、国家の内側に君主（天皇）を位置づける憲法体系の構築がなされている。「国家は最高の権力を有する領土国体なり」とし、天皇は統治権の主体でなく「国家の最高機関」

であり「権力の最高の源泉」であるとする「天皇機関説」は、実は論理的整合性がない、実にムチャな、アクロバティックな〈解釈改憲〉の体系として成立している事が、よく読める。こうした問題が実は「誰からも委任されたものではない」「国法上当然にも天皇に属する大権」である〈天皇大権〉（「国家の直接機関」という説明自体が、美濃部のかかげる「公民国家〈立憲制度〉主義」・「民政主義」（参政権）・「法治主義」という憲法原則が、まるで貫徹されていないという事実を自由してしまっている。

レポーターであった私の第一の関心は、天皇の〈植民地大権〉の位置づけ

であった。「植民地は本国とは原則としてその行われている法律制度とは異にしている」。植民地は「本国」の法律は適用されない〈天皇大権〉によるストリートな支配地（総督の発する「律令」による支配）。明文規定のない植民地大権を、美濃部も憲法上の権利として平然と論じている。美濃部〈デモクラシー〉の神話を打ち壊す作業の必要をあらためて痛感。

今回は尾高朝雄の『国民主権と天皇制』（講談社学術文庫）です。ぜひご参加を！

(天野恵)

のは私たちだ！

(加藤匡通／戦時下の現在を考える講座)

八天日誌

集合情報 INFORMATION

かに闘うか 天皇代替わり・オリンピック情勢の中で

8月27日(火) ●アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える練馬の会 第5回学習会「皇室におけるジェンダー」(集会の真相参照)

8月31日(土) ●天皇制に終止符を！「代替わり」で考える「天皇制」の戦争責任(集会の真相参照)

9月8日(日) ●みんなで議論する！東京パランピック！ただし、アンチ

9月13日(金) ●安倍靖国参拝違憲訴訟の会・東京「総会と映画上映の集い」

9月14日(土) ●全都反弾圧闘争

●「原発テロ」対策とは、本当は、どういう問題なのか？

9月21日(土) ●ここが問題！即位礼・大嘗祭(集会の真相参照)

9月22日(日) ●たんぽぽ舎30周年記念の集い 講演と懇親会

9月23日(月) ●天皇代替わり問題連続集会 代替わりとマスコミ報道

9月24日(火) ●原発被ばく労災あらかぶさん裁判第13回口頭弁論

9月25日(水) ●即位・大嘗祭違憲訴訟第4回口頭弁論

9月28日(土) ●茨城国体反対デモ 天皇は茨城に来るな！天皇制は今すぐ廃止しろ！(集会の真相参照)

9月30日(月) ●南京大虐殺・靖国に抗議した香港人弾圧を許すな！集会

10月6日(日) ●改憲攻撃下の弾圧とい

開催中●朝鮮人「慰安婦」の声をきく

13時〜18時(月・火・休日休館)／WAM 女たちの戦争と平和資料館(地下鉄早稲田駅)／主催：同館

10月12日(土) ●討論集会 天皇代替わりと学校教育

13時30分開始／文京区民センター2A(地下鉄春日駅ほか)／主催：都教委の暴走をとめよう！都教委包囲・首都圏ネットワーク(090-5415-9134見城)

10月13日(日) ●「平成」代替わりを問う連続講座「教育勅語」・「日の丸・君が代」と象徴天皇制

14時開場／ピブルズ・プラン研究所(地下鉄江戸川橋駅ほか)／北村小夜・田中聡史・天野恵一／主催：同研究所(03-6424-5748)

10月19日(土) ●うらなばいー天皇制

14時〜 集会後デモ／福岡・大手門パインビル2F(地下鉄空港線赤坂駅ほか)／脇義重・桜井大子／主催：天皇代替わりを問う九州山口連絡会(070-55647679)

10月19日(土) 22日(火) ●テント芝居公演・二つ三つのイーハトーブ物語

デクウーボ黙示録(仮)

17時30分開場／矢川上公園(JR矢川駅ほか)／野戦之月(090-8048-4548)

10月22日(火) ●東京戒厳令を打ち破れ！

天皇即位式反対デモ

13時15分開場・15時デモ出発／ニュー新橋ビル地下ニュー新ホール(JR新橋駅ほか)／主催：終わりにしよう天皇制！「代替わり」反対ネットワーク(090-3438-0263)

●「代替わり」の何が問題か？ マスコミと天皇制

13時30分〜 集会後デモ／静岡産業経済会館第一会議室(JR静岡駅北口15分)／中嶋啓明／主催：代替わりを考える市民連絡会・天皇制を考える会・静岡(080-6912-3623山河)

●天皇賛美の即位礼反対！京都集会

12時30分開場／京都府部落解放センター4Fホール(地下鉄鞍馬口駅)／久保井規夫／主催：天皇制の強化を許さない京都実行委員会(075-415-1030)

●憲法違反の即位式・大嘗祭にNOーだ

14時〜15時10分デモ出発／大阪中之島中央公会堂前水上ステージ(地下鉄淀屋橋駅)／主催：天皇代替わりに異議あり！関西連絡会(080-5166-1251寺田)

●公開シンポジウム 天皇制を考える

13時〜 西南学院大学史博物館2F講堂(福岡市営地下鉄西新駅)／辻子実ほか／主催：西南学院大学神学部ほか(092-8234-539 濱野)

10月27日(日) ●差別・排外主義を許すな！

新宿 ACTION

14時集合・15時デモ出発／アルタ前(JRほか新宿駅)／主催：差別・排外主義に反対する連絡会

●さあ、10月22日。こゝで、何だっけ？いや、デモだデモだ！ですよ(木寛)

●なんだって？暑いのか？もつ10月だってのに。さ、飯行くなりよ！(黒貂)

●あいつにいかけようと思ってるが日程がタイトすぎて悩むわ(編鰻)

●猿の惑星にいたいな毎日に、憂鬱な日々。脱出したい(桃色鰻)

●というわけで、ピブルだピブルだ(猿)

10月28日(月) ●バレスチナー・沖縄ー福島国際連帯フェスティバル

19時開演／中野ゼロ大ホール(JR中野駅)／MCGAZA・渋谷知らずオーケストラ／主催：同実行委(03-3591-1301 救援連絡センター内)

10月29日(火) ●アキヒト退位・ナルヒト即位問題を考える練馬の会 第6回学習会「即位礼・大嘗祭をめぐる」

18時15分開場／練馬区立厚生文化会館地下大会議室(西武池袋線ほか練馬駅)／中島三千男／主催：同会(090-5208-5803 池田)

11月17日(日) ●WAM特別展セミナー 植民地主義に抗した朝鮮のフェミニスト

14時〜 女たちの戦争と平和資料館(地下鉄早稲田駅ほか)／宋連玉／主催：同館(03-3202-4633)

11月19日(火) ●第2回中国人俘虜殉難者日中合同追悼の集い

9時〜 芝公園23号地(地下鉄芝公園駅)／主催：同実行委員会(080-1142-2515)

